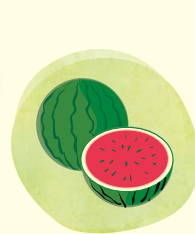


スイカ

山武経済センター 営農指導員 福岡 龍也



農業

テクニカルダイアリー



落花生

営農部営農振興課 営農指導員 石井 枝里奈

近年、購入苗や耐病性品種の導入が増加傾向にあります。そのような場合でも、定植前にベルフートフロアブル等の薬剤を散布しましょう。育苗期から徹底した防除を行い、本圃に病害虫を持ち込まないよう、健全な苗を定植するよう心掛けてください。

うどんこ病の初期症状として、葉に白い粉状のカビが発生しますが、症状が少し見える程度でも菌は広がっており、激発状態が続くと、葉の縁から褐変し、葉が枯れ上がります。

多発した年は育苗期からうどんこ病の発生が散見され、定植後にはさらに病害が拡大し、減収となった圃場が見られました。圃場での防除では、病害の拡大を止めることは難しいため、育苗期からの予防が重要となります。

近年は4月以降の気温が上昇する傾向にあり、特にアブラムシ、ハダニ、アザミウマ類などの害虫の発生が増えています。また、うどんこ病のような、やや高温下で発生する病気も増加しています。今回は、今後の病害虫対策をお伝えします。

うどんこ病

近年、うどんこ病や炭そ病に耐病性を持つ品種（祭ばやしⅠ）なども新たに登場しています。作型は大型トンネル・露地栽培などの遅い作型に適しており、既存の品種同様に薬剤の防除は必要となりますが、病害に悩まされている方は導入を検討してみてください。

耐病性品種

褐色腐敗病や炭そ病は6～7月の高温・多湿の条件下で多く発生する病気です。これらの病気は、圃場はもちろん、収穫後の果実に発生するケースも多いため、特に注意が必要です。発生前に早期の防除を行いましょう。

褐色腐敗病・炭そ病

アブラムシ、ハダニ、アザミウマ類などの害虫は、スイカの品質低下や収穫量の減少を招きます。また、後作の作物（トマト等）にも飛来して影響を及ぼすため、防除を徹底し、収穫後の残渣は速やかに処理しましょう。

害虫対策

昨年の振り返り

昨年は6月下旬から8月上旬の降水量が少なかったため、灌水をせずに土壌水分が不足した圃場では空蒔の発生が多く、減収となりました。また、干ばつ害によつて例年よりも幼芽褐変が多く発生しています。

図①のような幼芽褐変が見られる場合は出芽率が低下する恐れがあるので、播種する前に種子数粒を割って幼芽褐変がないか確認しておきましょう。

栽培のポイント

●畑の準備・播種（5月中下旬）
元肥に落花生専用（5-15-20）を10^ア当たり60^キ、苦土石灰を10^ア当たり60^キ～80^キ施用します。準備ができたなら、ベッドを作つてマルチ（2条用、畝間130^{センチ}、株間30^{センチ}）を敷き、1^{センチ}2粒ずつ播種します。鳥害対策として、播種前にキヒゲンR-2フロアブルで種子消毒を行います。

●病害虫対策
表①を参考に薬剤防除を行う

てください。白絹病や茎腐病の被害株は、早めに抜き取りましょう。

●マルチ除去（6月下旬）
収量・品質が低下しないよう、開花期（圃場の50%の株に1輪でも花が咲き始める頃）の7～10日後にマルチを除去し、雨水や灌水した水が浸透するようにしましょう。

●中耕（6月下旬～7月下旬）
開花初期から1～2回、中耕を行います。子房柄が地中に侵入しやすくなり、収量を上げる効果があります。除草も兼ねて7月下旬までに行いましょう。

●灌水（7月下旬～8月中旬）
結莢・莢肥大期に干ばつ害を受けると、子実の肥大が停止して空蒔が発生し、収量が大きく低下します。畑が乾いているときは、1回当たり30～40^{ミリ}灌水してください。

●試し掘り（9月中旬）
収穫が遅れると落ち蒔が多くなったり、食味が低下したりするので、必ず試し掘りをして収穫適期を逃さないようにしましょう。

表② スイカに登録のある薬剤

生育時期	薬剤名	対象病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数
育苗期	ベルグートフロアブル	うどんこ病・つる枯病・菌核病	1000倍	収穫前日まで	4回以内
	ロディー乳剤	ハダニ類・アブラムシ類	1000～2000倍	収穫前日まで	4回以内
	ウララDF	アブラムシ類	2000～4000倍	収穫前日まで	2回以内
つる引き後	スミレックス水和剤	菌核病・つる枯病	1000倍	収穫7日前まで	5回以内
	ショウチノスケフロアブル	うどんこ病	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	プロパティフロアブル		3000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	アブラムシ類・アザミウマ類	2000～4000倍	収穫3日前まで	3回以内
着果後	ショウチノスケフロアブル	うどんこ病	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	アブラムシ類・アザミウマ類	2000～4000倍	収穫3日前まで	3回以内
玉直し後	シグナムWDG	うどんこ病・つる枯病・炭そ病	1500倍	収穫前日まで	3回以内
	ダニオーテフロアブル	ハダニ類	2000倍	収穫前日まで	2回以内
肥大期	レーバスフロアブル	褐色腐敗病	2000倍	収穫前日まで	2回以内

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決！
栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。



JA山武郡市 営農なんでも相談室
（本所 営農部内）
☎0120-972-860

図① 幼芽褐変の程度別症状



引用元：令和5年「落花生」生育情報（第4報）（千葉県農林水産部生産振興課発行）

表① 落花生に登録のある薬剤

薬剤名	対象病害虫	使用時期	希釈倍率・使用量	使用回数
フォース粒剤	コガネムシ類幼虫	播種時	9kg/10アール	1回
トクチオン細粒剤F	ヒョウタンゾウムシ類	収穫60日前まで	9kg/10アール	2回以内
トップジンM水和剤	褐斑病、茎腐病	収穫7日前まで	1500倍	4回以内
フロンサイド粉剤	白絹病	収穫45日前まで	20kg/10アール	1回

●乾燥（9月中旬）
掘り取り後は5～7日間地干しします。その後、風通しの良い場所で野積みし、ブルーシートや稲わら等で覆います。近年の

秋の台風や長雨の影響による品質低下を防ぐため、平積みにはトンネルを掛ける乾燥方法もあります。十分に乾燥させた後、脱穀・調整してください。